

東カリブ諸国機構（OECS）6カ国月間情勢報告

（アンティグア・バーブーダ、ドミニカ（国）、グレナダ、セントクリストファー・ネイビス（セントキッツ）、セントルシア、セントビンセント及びグレナディーン諸島（セントビンセント））

（2020年1月）

在トリニダード・トバゴ日本国大使館

1. 概況

- 各国とも新型コロナウイルス対策として、空港等での検査、中国からの渡航制限などを実施し始めた。1月末時点で感染者は確認されていない。
- ジョナス・アンティグア農業大臣が解任され、マーシャル農業大臣が就任した。
- 旭日中綬章を授賞したジョセフ・アンティグア開発担当大使への勲章授与式がアンティグア総督府で実施され、総督、首相、外務大臣等多数が出席した。
- ポンペオ米國務長官のジャマイカでの一部カリブ諸国との会談について、東カリブ諸国間でも賛否が分かれている。

2. 内政

- 2日付ドミニカ紙は、野党統一労働党は昨年12月の総選挙につき10選挙区での結果を無効とする訴えを裁判所に起こしたと報道。14日付同紙は、スケリット首相がこの訴訟は250万東カリブドルの追加支出を要し、国の開発努力の妨げとなると述べたと報道。
- 3日付アンティグア紙は、2日より運転中の携帯電話使用に500東カリブドルの罰金が導入されたと報道。
- 7日付セントビンセント紙は、19年の犯罪発生件数は5,356件と前年の5,759件から減少したと報道。9日付アンティグア紙は、19年の殺人件数は前年比75%減少し、ここ20年で最小となったが、犯罪件数自体は634件増加したと報道。
- 20日付アンティグア紙は、ブラウン首相は、ジョナス農業・漁業大臣の職責を即時に解くと発表し、後任にマーシャル社会変革大臣を指名したと報道。26日付同紙は、ブラウン首相は、ジョナス前大臣は政府調達手続きを度々違反していたと述べたと報道。
- 22日以降の各国紙は、新型コロナウイルスに対する空港等での監視体制を導入、強化していること、中国在住の自国民の帰還を検討していること等を報道。30日付ドミニカ紙は、マッキンタイア保健大臣がドミニカ中国間の渡航を制限すると発表したと報道。31日付グレナダ紙は、政府は中国からの帰国注意勧告にも関わらず留学生2名が帰国し、現在隔離検査中と発表したと報道。1月末

の時点で感染者の確認は報じられていない。

- 23日付セントキッツ紙は、仮想資産法案が国会で可決され、ハリス首相は、国際市場で同国が責任ある役割を果たすための重要な法案と述べたと報道。
- 23日、バランタイン前セントビンセント総督（健康上の理由で昨年7月末で総督を辞任）が逝去し、29日に国葬が行われた。
- 24日付アンティグア紙は、ブラウン首相は20年度予算案につき、国民全体の成長と発展のために、19年度より3億東カリブドル近く増額した17億東カリブドルの予算案を発表したと報道。
- 25日付グレナダ紙は、政府は投資による市民権（CBI）プログラムによる歳入の40%を緊急時予備費として特別基金に投入すると発表したと報道。
- 24日、セントキッツ紙は、カリブ開発調査サービス社（CADRES）が昨年10月に有権者千人を対象に行った世論調査で48%の有権者が連立与党が勝利する、野党が勝利と答えたのは26%となったと報道。

3. 経済

- 6日付セントルシア紙は、同国政府は4月から観光客に宿泊税（宿泊料が120米ドル以上の場合6米ドル、以下の場合3米ドル）導入を発表したと報道。
- 7日付グレナダ紙は、スミス駐米グレナダ大使は、国際開発協会（IDA）との間で、財政の持続可能性支援及び海洋及び沿岸管理を強化のための改革遂行のための借款2千万米ドルに署名したと報道。
- 12日付セントビンセント紙は、同国はアフダビ開発基金（ADFD）から再生可能エネルギー関連の1億5百万米ドルの支援を受ける国の1つとなり、同国では1千万米ドルの7メガワット太陽光発電導入が実施されると報道。
- 16日付グレナダ紙は、ア首連カリブ再生エネルギー基金（UAE-CREF）は、カリブ諸国16カ国に気候強靱性のある再生可能エネルギー支援は、3年計画の2年目に入り、グレナダ及びセントキッツでの案件の開発資本合意に至ったと報道。
- 16日、セントルシアで2件の草の根・人間の安全保障無償の署名式が行われ、平山大使が出席、署名した。ごみ収集車3台を調達するカストリーズごみ収集改善案件では、リゴバート教育大臣及びフラッド＝ボブラン外務大臣が同席し、ピアイ小学校衛生改善案件では、地元選出のフィーリックス商業大臣が同席した。17日、平山大使は、市内消防署でフランシス内務大臣及びモントゥート公平・社会正義大臣と共に、調達されたはしご車等の防災機材の引渡式に出席した。
- 20日付セントルシア紙は、シャスネ首相はバルバドスでスミス・カリブ開発銀行総裁と会談し、インフラ案件への同行からの支援につき協議したと報道。
- 21日付セントルシア紙は、アントワン東カリブ中央銀行総裁はセントルシ

アを訪問し、東カリブ通貨同盟の現状等につき官民代表と協議したと報道。

● 22日、O E C Sは、世銀はグレナダに対する災害リスク管理開発政策に関する2千万米ドルの貸付を承認したと報道。

● 23日、アンティグアでギルバート農業・地方開発センターへのホスピタリティ訓練施設建設に関する草の根・人間の安全保障無償資金協力の署名式及び起工式が行われ、ウィリアムス総督参列の下、平山大使が出席、署名を行った。

● 28日付グレナダ紙は、観光局は史上最高だった18年に続き19年の観光客も約52.5万人となり、観光産業の成長は続いていると報道。

● 30日付アンティグア紙は、ブラウン首相は、ファーウェイ通信機器調達の優遇貸付申し出を、米中緊張関係を考慮して断ったと述べたと報道。

4. 外交

● 3日付セントビンセント紙は、2日国連安保理に同国の国旗が掲げられ、2年間の非常任理事国の任期が開始された、今までの非常任理事国の中で面積、人口とも最小と報道。

● 11～12日、台湾承認国のセントキッツ、セントルシア及びセントビンセントは、11日の台湾総統選挙での蔡英文総統再選に対し、各々首相名で祝辞を发出した。

● 13日付セントビンセント紙は、9日ゴンザルベス首相は、国連安保理公開討論で、世界平和と安定の維持、国連憲章の支持と題する演説を行ったと報道。

● 15日付グレナダ紙は、14日デービッド外務大臣は、中国との外交関係樹立15周年式典でグレナダは1つの中国政策を遵守すると述べたと報道。

● 16日付セントキッツ紙は、ハリス首相は同国訪問中のビリングスリー米財務省テロ資金担当次官補を長とする代表団と会談し、今年の相互金融評価報告の作成準備、米金融犯罪捜査網の勧告問題等につき協議したと報道。

● 18～21日付地域各紙は、21日ジャマイカでのポンペオ米國務長官と一部カリブ諸国との会談につき、グリーン・アンティグア外務大臣及びゴンザルベス・セントビンセント首相は、モトリー・バルバドス首相のカリコム団結の原則の立場を支持する、デービッド・グレナダ外務大臣は、会合には代表を送らない、ベネズエラ問題への立場は固持すると述べたが、ブラントリー・セントキッツ外務大臣は、これはカリコムの会合ではなく、2国間協議と承知しており、出席することになると述べたと報道。

● 19日付セントビンセント紙は、ゴンザルベス首相はガイダーフォーラム出席のためロシアを訪問し、ラブロフ外務大臣と会談した、またスプートニクとのインタビューで同国とロシアは価値観を共有する、国連安保理はベネズエラの大統領交代を防いだ、英国のEU離脱の同国への影響は大きくなく、英との貿易

協定締結に楽観的等と述べたと報道

- 20日付セントキッツ紙は、米州機構事務総長に立候補しているエスピノサ元エクアドル外務大臣は、ハリス首相及びブラントレー外務大臣と会談したと報道。
- 23日付ドミニカ紙は、中東地域で初めてとなる在ア首連ドミニカ大使館が開設されたと報道。
- 23日、令和元年秋の外国人叙勲で旭日中綬章を授賞したダベン・ジョセフ・アンティグア首相府開発担当大使に対する勲章伝達式がアンティグア総督府にて行われ、ウィリアムス総督夫妻、ブラウン首相、グリーン外務大臣等出席の下、平山大使より勲章を授与した。同国人としては初の叙勲となった。
- 26日、OECSは、昨年9月に開設した在モロッコOECS大使館に関し、キーラー大使がモロッコ国王に信任状を捧呈したと発表。

※これは、報道等公開情報をまとめたものであり、報道の真偽まで確かめたものではありません。